

86th—87th

新制作

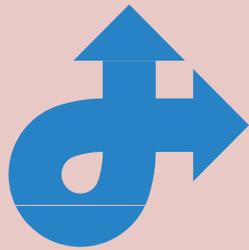
SHINSEISAKU

2024

会報

新制作協会

vol.81



## 87回展に向けて 委員長 一居孝明

〈新時代の表現を切り拓くために我々の挑戦は続きます〉

新制作展も今年で87回展を迎えることになりました。ひとくちに87回と言いましても、今日までこの素晴らしい新制作協会を築き、育ててくださった創立会員をはじめとする全ての会員の皆様に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。私自身、新制作協会に関わり45年になりますが、常に躍進する新制作協会の一員であることを誇りに思っております。



さて、皆様も感じておられることと思いますが、今の時代は自然災害、新型ウイルスの出現、凶悪な事件など不安な要素が多くあります。しかし、このような時代においても、いや、このような時代だからこそ、我々造形者は、今、自分が伝えられることを形にいくことが大切なのではないでしょうか。

いかなる時代においても、我々新制作が目指す向上心と前進の精神を胸にクリエイティブな舞台に立ち、自由な発想と大胆な表現で芸術の旗手として創作する。また、洗練されたモダン感覚が交錯する我々の新制作協会、絵画、彫刻、スペースデザインの領域で優れた才能が集結し、共に未知の領域を切り拓く芸術の可能性を広げる。そして、未来へのインスピレーションを創り上げ、新たな時代に挑戦し独自のアートの旅に誘う。それが我々の使命ではないかと思えます。

今後も我々はより多くの才能を育み、より素晴らしい作品を世に送り出すために努力を惜しまず、美術の可能性を追求し、皆様の更なる飛躍が実現できることを信じています。

最後になりますが、今回、委員長という大役を受け、大変不慣れな立場で行き届かないことも多々あると思いますが、87回新制作展が成功裏に開催できますよう、これからも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 第87回新制作展 “The 87th SHINSEISAKU Art Exhibition”



第87回新制作展は下記の日程を予定しております。

国立新美術館  
(The National Art Center, Tokyo)

2024年  
9月18日(水) - 9月30日(月)  
休館日: 9月24日(火)



#### 2024年度委員

〔代表委員会〕

委員長 一居孝明 (絵画部)

副委員長 岩間弘 (彫刻部) 西村俊夫 (SD部)

代表委員

●絵画部 矢澤健太郎 緒方和美 鈴木幸子 渡邊有葵

●彫刻部 佐善圭 江村忠彦 河西栄二 原田理糸 牧野未央

●SD部 大木敦子 加賀谷建至 雨山智子 金子武志

〔合同委員会〕

●会計委員会 ●図録委員会 (図録/広告)

●美術館担当委員会 ●広報委員会 (広報・PR/会報/HP)

●受賞作家展委員会 ●慶弔委員会 ●美術団体懇話会

## 各部より

### 絵画部 矢澤健太郎

昨年度86回展は会場に多くの方々が  
お運びくださり盛況でした。懇親会や行  
事なども催され、コロナ以前にすっきり  
戻った感じです。この数年いろいろと我  
慢しながら制作をし、人との触れ合いも  
制限されてきましたが日常を取り戻せた  
感があります。入場者も格段に増え、何  
より力強い作品が多く並ぶ良い展示空間  
になったことは感謝に堪えません。

2024年は能登半島地震、羽田の航空  
機事故などの心が辛くなるようなニュー  
スから始まりました。画面を通して被災  
者の方々の姿を見るたびに芸術は平穏な  
時にこそじっくりと鑑賞し、制作できる  
ものなのだとつくづく感じます。悲惨な  
状況や辛いことを作品に残した作家もた  
くさんいて、それらは人の心に響きます。  
でも、それらは単なる事実の伝達ではな  
く、その表現の中に高い芸術性を持って  
いるからこそ時代を経ても尚人々に訴え  
かけるものがあるのでしょう。一個人と  
して世の中のことに無関心では生きてゆ  
けないように作家としてそれらを意識せ  
ずに制作することは困難です。良い絵と  
は何でしょうか？心に響く作品とは何で  
しょうか？答えは簡単には出ません。し  
かし私たちはそれらを問い続けられる作  
家集団でありたいと思っています。87  
回目を迎える新制作展をよろしく願い  
申し上げます。



### 彫刻部 佐善圭

「アーティストは必要不可欠であるだ  
けでなく、生命維持に必要なのだ」とい  
うドイツ文化大臣の発言を聞き、自らの  
存在価値を再認識すると共に、コロナ禍  
に奮い立った美術家達を記憶しています。  
しかしながら「不要不急」という合言葉  
により、新制作展も開催を見合わせる苦  
い経験をしました。

その中で彫刻部は、未来への発展的な  
展覧会を見据えて議論を繰り返し、デジ  
タルによる審査を導入すると共に、昨年  
度から彫刻表現のチャレンジの場として、  
35cm立方の限られた空間に立体を表現  
する「35<sup>3</sup>-サンゴキューブ-」部門  
を新設致しました。

また、毎年好評を頂いております彫刻  
部の企画は、『新制作展の彫刻にふれて  
みる』と題し、作品に直接触れながら鑑  
賞者と制作者が交流する新たなギャラ  
リートークを用意しました。彫刻家の想  
いやメッセージを纏い空間に生まれた  
「存在」に触れたいという気持ちは自然  
なものです。コロナ禍を経験したからこ  
そ、今生きていて、そこに居合わせるか  
らこそ実現できる一体感と彫刻表現に更  
なる可能性を感じて頂けるように準備し  
ております。新制作展は、参加者全ての  
作品で創り上げる魅力ある空間です。ぜ  
ひ、心地よい素敵な展覧会にお越し頂け  
れば幸いです。



### スペースデザイン部 大木敦子

多様性という言葉が浸透して久しいで  
すが、多様性（ダイバーシティ）だけでは  
なくそこには包摂性（インクルージョン）  
も必要であると近年は言われています。

スペースデザイン部では「空間に関す  
るあらゆるデザイン作品」を対象として  
いますが、その作品はまさに多様。素材  
や技法は多岐に渡り、その境界を超えて  
表現されるものも増えています。また、  
作家が年齢・性別・立場を超えて作品と  
いう共通点を介して集い、意見を交わし、  
場を共有している。まさに多様性と包摂  
性を体現しているのではないかと考えま  
す。

2023年の86回展では入場者数も回復  
し、充実した展覧会となりました。また  
久しぶりにスペースデザイン部のトーク  
セッションも開催され、盛況のうちに終  
了しました。

制作をする、表現をする、作品に触れ  
る、表現者も鑑賞者もアートに対する情  
熱は決してなくなるのではないのだと感  
じることができました。

自然災害や厳しい世界情勢を前にして  
時にアートは無力です。しかし、人々に  
勇気を与えたり、励ましたり、希望にな  
ることができるのもまたアートだと考え  
ます。人の喜怒哀楽に寄り添うという大  
きな使命があると思うのです。

87回展も多様な作品の数々が揃い、  
充実した空間を作り上げたいと思ってい  
ます。そしてそこに集う人々の対話が  
生まれることを期待しています。



## 第86回新制作展

### 審査陳列報告

#### 絵画部

審査陳列委員長 島橋宗文

新型コロナウイルスの5類移行によって、制限が緩和され従来の審査光景が見られたことに喜びを感じました。また今夏は特に厳しい猛暑にも負けじと制作された作品群は充実した高いレベルで画面から伝わる情熱、緊張感に熱い視線を抱きながら、一点一点丁寧な厳正公正な審査が行なわれました。

搬入者334名、総搬入点数693点と減少傾向の中で、299名の入選を決定し、初入選者35名、2点入選者29名、総点数328点の迫力ある作品が出揃い、その中で新会員3名、新作家賞8名、絵画部賞8名、SOMPO美術館賞1名が選出されました。陳列に関しては、2点入選の作品は上下二段の組み合わせで3ヶ所設け、力量ある熱い会場にポイントを置き、全体構成は新制作本来の一段掛けを踏襲し、会員、一般部門、小作品部門、データ審査部門、各々の特質を生かして会場の流れを作り、全体作品の良さが引き出されるように心がけ美しい空間展示ができたと思われまます。

また、企画展示として「時代を担ってきた作家たち2023」は、創立会員の伊勢正義氏の「異邦人」「少女像」「静物画」等展示と、アートレクチャーでは秋田県立近代美術館学芸班である木村雅洋氏の講演が行われました。この企画を通して、創立当時の若き先人達の掲げた精神に基づき協会マークの象徴する「**向上と前進**」の下で真の意味を問い直し、各人各様が自由な天地で切磋琢磨する作家集団でありたいと思いました。

#### 彫刻部

審査委員長 杉本準一郎

様々の生活場面が続くそれぞれの人が表現活動に喜びを持ち、生きている証を賛美する表情を形態に留める彫刻制作を進めています。この喜びが集まってきました。新制作への出品作は会員全員での審査会を設定し入選展示作品を決めました。私も歩き始めた頃よりこの方法による過程に発表を委ねてきました。大切な豊かな制作の証を審査させていただいた結果は果たして間違いのない判断だったろうかと毎年思うのです。作者、作品への全く正しい理解となったか、問い直しますと自信のない顔色をしてしまいますが、今年も会員全員で懸命に、夢中に協議できたと思っています。“コロナ”や新しい出品方法の挑戦の手順も用意された中、丁寧に検討、審査をしたことは自信を持っています。続けていきましょう。

#### 陳列担当チーフ 濱田卓二

第86回展において彫刻部では、引き続き画像のみの審査を行い、前回展とほぼ同数の展示作品が会場に並びました。

展示構成では、多彩な作品群の一体感を念頭に置き、大小問わず一点一点丁寧に鑑賞できる配置を心掛けました。

また、彫刻における新たな手法や考え方へのアプローチを受け入れる「35キューブ部門」が開設され、会場奥には限られたサイズながらも熱量ある作品が展示されました。

野外展示会場へ向かう通路入口付近では、前回展同様にチャリティー作品並びにポストカードの販売を行いました。

#### スペースデザイン部

審査委員長 伊藤哲郎

例年のように盛夏が一段落ついた頃、会員それぞれが期待と一種の高揚感を持って応募作品の審査が始まります。新しい素材や工法、フォルムとの新鮮な出会いもあれば、既知の領域で足踏みをしているように感じられるもの、ちょっと乱暴だけど発見し表現したいという強い意欲が感じられるものなど、作品制作者個人の体験や知識と、審査する側のそれとが作品を通じて対話・交流をする場となっています。

一般部門では小型化・軽量化の傾向があるように感じられ、迫力と重さで勝負みたいな作品が少なくなって寂しい印象です。ミニ部門では応募件数が増え、素材や表現のヴァリエーションに拡がりが見られましたが、試作中のようなものも散見され、より結実した実体としての作品に期待したいと思います。

#### 陳列委員長 藤原郁三

前回同様スッキリした展示になったと思います。彫刻部との仕切り壁は今後ともなくした方が正解かも知れませんね。また、作品のボリュームは全体的に平均化しているようで、会員の作品との混在でなければ空間のメリハリが付けにくいと感じました。小作品に密度の高い作品が多かったので一つ一つじっくり鑑賞できる空間づくりも大切だと思いました。導線に折れ曲がりや、コーナーを作るなどして、もう少し抵抗をつけるのも一考です。



# 新会員紹介

絵画部



木滑美恵

美術学生の時、先輩が東京から抱えきれない程の公募展の画集を持って来てくれた。私は数ある中で新制作展が1番心惹かれた。まるで画集から新鮮な風が舞い上がって来るようだった。いつか絶対新制作展に出そう！そう心に決めていた。

憧れとは甘いだけの響きでなく人を突き動かし続けるのだと今回の報を受け実感した。ひとえに会員の先生方のご指導のおかげと感謝致します。

1958年 北海道上砂川町生まれ  
1980年 札幌大谷短期大学専攻科美術終了  
1997年 第61回新制作展 初入選  
第85回新制作展 新作家賞受賞



塚崎聖子

新制作展はずっと私の憧れでした。迷いながら出品して初入選した時は、嬉しさのあまりワクワクしながら上京したことを思い出します。北海道在住でしかも殆ど独学の身で会員にさせていただけるとは想像もしていませんでした。

新制作を学びの場として先生方から刺激をいただき、また真剣に取り組む多くの仲間巡りに合えた事に感謝し、これからも一層精進したいと思います。

北海道生まれ  
札幌大谷短期大学美術科卒  
第80回、第84回新制作展 新作家賞受賞



吉成文男

長年「パラダイス」と題して、気ままに制作してまいりましたが、この間、会の皆様には温かい目で見守っていただいたことを深く感謝申し上げます。この度、新会員にご推挙いただき、また新たな気持ちで励んでまいりたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

1957年 大阪生まれ  
1994年 第58回新制作展 初入選  
第69回、第83回新制作展 新作家賞受賞

彫刻部



飯田昌史

学生時代、首ばかり5点段ボールに詰め込んで新制作初挑戦。運良く1点入選。懇親会では創立会員の方たちと握手。有頂天になった私は、帰りの夜行列車では一睡もできませんでした。それほど新制作展は、センスあふれる多様な価値観が吹き荒れる憧れの場所でした。その場所に、これからは自分も会員として参加させていただきたくさんの先輩方から戴いたアドバイスに感謝しつつ、頑張ります。

1959年 石川県七尾市生まれ  
1981年 第45回新制作展 初入選  
1982年 鳥取大学教育学部卒業  
第84回、第85回新制作展 新作家賞受賞



井上直

小学5年の時、親に五月人形を買ってもらい人形に感情移入しました。彫刻という概念はないとしても、こういうものを作りたいと願いました。その願いを追って現在も奮闘中です。人形からいつの間にか硬く重い石に変わりましたが、幸せです。

1947年 奈良県五條市に生まれる  
1969年 奈良教育大学中学校課程芸術科美術彫塑専攻卒業  
1972年 京都市立芸術大学美術学部彫刻専攻科修了  
1975年 個展 ギャラリー射手座（京都市）  
1986年 個展 番画廊（大阪市）  
2010年 第74回新制作展 初入選  
第83回、第84回新制作展 新作家賞受賞



上田さや子

会員にご推挙頂き、心より御礼申し上げます。毎回新制作の作品群を目にし、圧倒された自分がありました。その作品群には、素材が語りかけてくれる力があり、洗練された形から、造形の可能性を感じました。ここに本物がある。と確信し私はそれを支えに作ってきたように思います。

私はこれからも新しい表現を追求しながら、見た人の心にズシンと響く作品を作って行きたいです。よろしくご指導お願い致します。

1954年 石川県金沢市生まれ  
1978年 金沢美術工芸大学彫刻科研究科修了  
1991年 第55回新制作展 初入選  
第83回、第85回新制作展 新作家賞受賞

彫刻部

スペースデザイン部



小嶋満明

学生の頃、先輩がなかなか入選できずとの噂や塑造の講座の為に来ていたモデルさんによる所属作家の作品・人柄等の話を耳にしたのが新制作展鑑賞のきっかけでした。その後25年程は一鑑賞者のままでしたが、いつの間にか出品意欲や着想転換の時機を作っていたか今日に至りました。総じて会に育てられたと感謝しております。また自分なりに新しい何かを探求できればと思っています。

1958年 東京都生まれ  
1983年 東京学芸大学教育学部美術科卒業  
2006年 第70回新制作展 初入選  
第81回、第83回、第85回新制作展 新作家賞受賞



雨森浩子

新制作展を初めて鑑賞したのは、高校生の頃、上野の東京都美術館での新制作展でした。

スペースデザイン部は、様々なジャンルや素材の作品が出品されているため自身の繊維による造形や表現を見つめ直す場として挑戦してきました。

初心を忘れずにこれからも研鑽を重ね、作品を制作し続けていきたいです。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

1971年 東京都生まれ  
1994年 女子美術大学芸術学部工芸科卒業  
1994年 第58回新制作展 初入選  
2010年 テキスタイルアート・ミニチュール展  
第84回新制作展 新作家賞受賞



田村純也

十代から石材業に就き石の加工や彫刻技術を身につけてきました。美術的なことは全く学んでおらず、ただ感情をカタチにしてみました。作品も経験も浅いですが努力を楽しんで誰かの記憶に残るよう、より深みを目指していきます。

1978年 北海道苫小牧市生まれ  
2017年 第81回新制作展 初入選  
第83回、第85回新制作展 新作家賞受賞

## 第86回新制作受賞作家展

新制作展では、優秀作品に協会賞、新作家賞を授与し、受賞者には、当協会各部主催の受賞作家展を企画しています。第86回展の新制作受賞者（協会賞・新作家賞）の展覧会が開催されました。

### 絵画部

シロタ画廊

2024年2月5日（月） - 10日（土）

妹背百代、岡田峰子、奥村幸、春日佳歩、北村多希子、黒川富栄、小松隼人



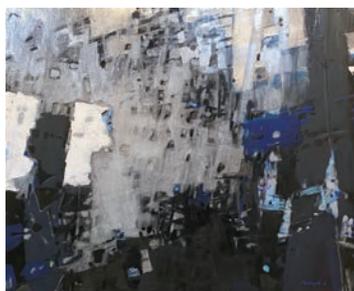
賞牌 アネモネ (リトグラフ)

### 受賞者に向けて

オセティアの朝市で  
小さな花を見つけた。  
花束は可愛く、美しい。  
アトリエに戻り  
陽差す窓辺に置くと  
逆光で、花びらが歌うように輝いている。  
鉛筆をとる。  
明日、また窓辺で会おう。

受賞されたみなさん、おめでとうございます。

絵画部 松浦安弘



1



2



3



4



5



6



7

1. 妹背百代 《ひかりのfugueR6》  
F100
2. 岡田峰子 《いつもの街》  
F100
3. 奥村幸 《窓 1》  
F80
4. 春日佳歩 《処理・加工・成形》  
F100
5. 北村多希子 《ぶるん》  
S100
6. 黒川富栄 《ココロヨ、ココロヨ、イッテオイデ》  
S100
7. 小松隼人 《24時間たかえませんか》  
F50

## 彫刻部

ギャラリーせいほう

2024年2月5日(月) - 15日(木)

稲角新平、河村幹夫、西井武徳、藤田結花



8



9



10



11

8. 稲角新平  
《CYBER RAY》  
W68 × D51 × H113 cm ワイヤー
9. 河村幹夫  
《旅路》  
W52 × D80 × H164 cm 松、桐、草まき
10. 西井武徳  
《vanishing point ('23)》  
W70 × D70 × H170 cm 樟
11. 藤田結花  
《対、見つめる》  
W50 × D130 × H100 cm コールテン鋼、銅

## スペースデザイン部

建築会館ギャラリー

2024年2月4日(日) - 10日(土)

加藤令子、久野博美、鈴木未都、山崎明史

12. 加藤令子  
《ニューロン》  
W180 × D30 × H80 cm レーヨン糸
13. 久野博美  
《風のおくりもの》  
W70 × D60 × H300 cm 不織布、発泡スチロール、木、針金他
14. 鈴木未都  
《円柱2022》(左作品)  
W22 × D22 × H100 cm NT ラシャ紙、ポイド管  
《ピオラ》(壁面作品)  
W1682 × H1188 cm NT ラシャ紙
15. 山崎明史  
《空気の奏で》  
W400 × D10 × H250 cm 紙



12



13



14



15

## 巡回展開催案内

### 「第87回新制作展 京都展」

会期：2024年10月22日（火） - 27日（日）

会場：京都市京セラ美術館

### 「第87回新制作展 名古屋展」

会期：2024年11月12日（火） - 17日（日）

会場：愛知県美術館

## 表紙作品

松浦安弘

《カレッツァ湖》

第82回新制作展出品

2018年

130 × 162 cm



—風景との出会い—

コルティナ・ダンベツォのことを私に教えてくれたのは誰だったのか思い出せなかった。いろんな人が出て来て迷っていた。まさかポスターをみて素敵な風景と思ったとは考えられない。思いめぐらしていたらやっと解った。それはヴェネツィア・サンタ・マリア・フォルモーサ広場の横丁を入ったところにあった居酒屋食堂のおじさんであった。ヴェネツィアを描きつづけるのは嬉しいがコルティナ・ダンベツォの山岳風景を描いてくれと云った。初夏を迎えるころボルツァーノから登りはじめて、すぐに途中にあるカレッツァ湖で休んだ。そこで針葉樹の森に囲まれた湖をみたとき、その澄み切った水面と遠くの山々の美しさに息をのんだ。当時はみえる風景を角度をかえて描いていたが、後になってからは、湖の神秘的な静けさを表現するには湖と針葉樹だけの世界がよいと思った。



カット：荒井茂雄

## 訃報 (2024年3月現在)

新制作協会発展に尽力されました故人を偲び、心よりご冥福お祈り申し上げます。

荒井茂雄 氏  
絵画部会員

2023年  
6月20日 逝去  
(享年103歳)



澄川喜一 氏  
彫刻部会員

2023年  
4月9日 逝去  
(享年91歳)



岸宏士 氏  
絵画部会員

2023年  
1月11日 逝去  
(享年88歳)



佐野ぬい 氏  
絵画部会員

2023年  
8月23日 逝去  
(享年90歳)



片伯部平 氏  
彫刻部会員

2023年  
12月8日 逝去  
(享年75歳)



木下和 氏  
絵画部会員

2023年  
4月28日 逝去  
(享年80歳)



名柄禎子 氏  
絵画部会員

2023年  
12月14日 逝去  
(享年92歳)



梶本良衛 氏  
彫刻部会員

2024年  
1月12日 逝去  
(享年72歳)



## 編集後記

原稿拝読中に、行間から作品の舞台裏のようなものや作者の人柄のようなものが垣間見える時があります。作品を見る機会とはまた違った角度からそれらが感じられたりしています。それは作品から感じられるものと同質である場合もありますし、全く異質なものである場合もあります。編集作業は、切り口を変えた作品鑑賞にもなるのだと思いました。いろいろなところに学びはあるものです。今号もお忙しい中、原稿執筆をお引き受けくださいました方々に深く感謝します。

(新美)

新制作協会事務所

〒160-0022  
東京都新宿区新宿6丁目  
28番10号 大阪屋ビル202号

TEL：03-6233-7008  
FAX：03-6233-7009  
Mail: webmaster@shinseisaku.net  
www.shinseisaku.net

発行 新制作協会  
発行日 2024年5月

監修  
一居孝明

企画・編集・制作  
広報委員会広報誌編集委員  
小島隆三、山口都、岡孝博、  
新美正樹、岡本泰子、二井進

デザイン  
SHIMA ART&DESIGN STUDIO

